

渋谷区・パリ市六区文化交流協定成立記念特別展

パリ市六区の三美術館所蔵

エベール・ドラクロワ・ザッキン

——エベールの絵画初公開——



主催 渋谷区・パリ市六区
後援 外務省・フランス大使館

会 期

昭和60年11月3日(日)

↳

昭和60年12月8日(日)

会 場

第一会場

(地下1階, 主陳列室)

第二会場

(2階, サロン ミューゼ,
特別陳列室)

エベール作
龍を退治する
聖女マルガレータ
(油彩)

渋谷区立松濤美術館

解 説

パリ市六区は、サルトルなどの実存主義作家が活躍した場所として知られ、リュクサンブール公園や、美術学校、数多くの美術館、博物館があり、芸術・文化を育むにふさわしい環境にあります。

渋谷区は、パリ市六区との友好親善関係を深めてまいりましたが、このたび正式に将来にわたる両区間の文化交流協定を締結しました。

本展は、協定締結を記念して、パリ市六区に所在する三美術館——国立エベール美術館、国立ドラクロワ美術館、市立ザッキン美術館——の所蔵品を陳列します。



エベール 眠る小さなヴァイオリン弾き (油彩)

〔エルネスト・エベール〕 (1817~1908)

エベールは、19世紀フランス・アカデミーの代表的な画家で、フランス市民文化が爛熟した19世紀後半に、品格ある夢みるような女性を描く肖像画家として、パリ市民の間に名声を馳せました。

エベールは、フランスのグルノーブルで生まれ育ち、パリ上京後、22才の若さでローマ大賞を受け、ローマのフランス・アカデミーで研鑽する機会を与えられました。帰国後、サロンで受賞を重ねた彼は、「ナポレオン三世の皇女マチルド」などをはじめとする上流貴婦人の肖像画を数多く手がけ、画壇に確固たる地位を築きました。彼は二度にわたり、ローマのフランス・アカデミーの校長に任命されています。パリでの仕事と社交界に疲れた彼の心身を癒し、創作の源泉となったのは、イタリア風景の美しさと、そこで生活する農民達の素朴な姿でした。19世紀から20世紀初頭の激動する時代を生き抜いたエベールの憂愁をたたえた数多くの絵画には、次々と勃興したロマン主義、写実主義、印象主義などの様々な芸術的主張、時代感覚が反映されています。また世紀末の象徴主義画家達に多大な影響を与えた耽美的傾向の作品も注目されつつあります。このような意味で、エベールの絵画を鑑賞することはフランス19世紀全体を追体験することであるといえるでしょう。又、「ローマ郊外」などの数多くの風景画は、イタリア農村の美を詩情豊かに描き出しており、本展では、それらの作品を含めた油彩13点、水彩18点、デッサン32点を初公開します。



エベール 泉のそばのローザ・ネーラ (油彩)



エベール 海沿いの漁師小屋 (水彩)

〔ウージェーヌ・ドラクロワ〕 (1798~1863)

ドラクロワはフランス・ロマン派の巨匠として知られています。画壇には「ダンテの小舟」で登場し、続いて「キオス島の虐殺」、「サルダナパールの死」など特異な主題を激しい構図と色彩で描いた話題作を発表して、ロマン派画家の筆頭とみなされるようになりました。モロッコへの旅行によって色彩はより輝きと強烈さを加え、エキゾチックなオリエント的テーマが数多く導入されました。その65年の生涯に、宮殿、寺院の壁画を手がけた他、水彩、リトグラフなどあわせて9,000点以上もの作品を残し、六区にある現在のドラクロワ美術館となった自宅で静かに息を引き取りました。本展には、ドラクロワ美術館からリトグラフ、書簡など九点を出品する他、ドラクロワ友の会からデッサン類四点、弟子の作品二点を加えて陳列します。



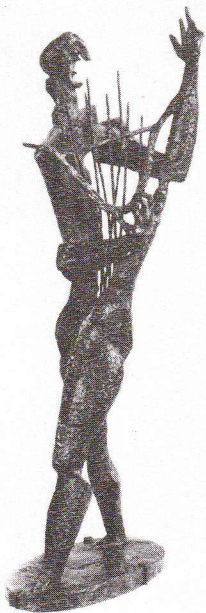
ドラクロワ おびえて水から上る馬 (リトグラフ)

〔オシップ・ザッキン〕 (1890~1967)

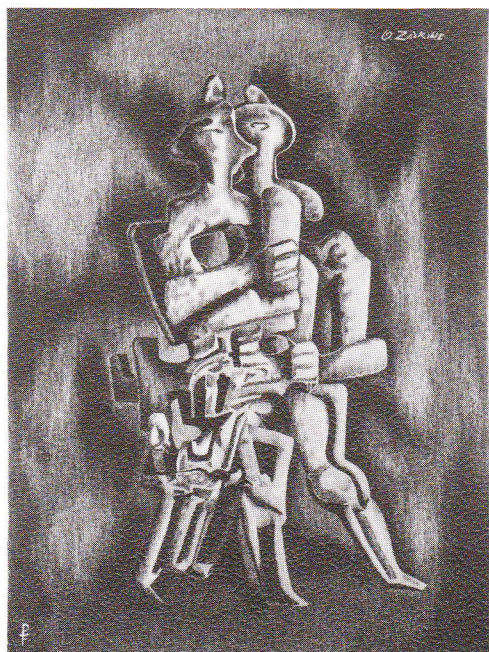
ザッキンは立体派の彫刻家として現代彫刻界に大きな足跡を残しました。ロシアに生れ育ったザッキンは、パリで多くの詩人、芸術家と親交を重ねて本格的な彫刻活動を開始しました。黒人彫刻や、キュヴィズムの運動に触発されて、面を解体し組み合わせ、抽象でも具象でもない独自の彫刻を次々と生み出してゆきました。ザッキンの創造の源泉は、幼い彼を育んだロシアの深い森の神秘と詩と文学が彼の燃えるような魂と融合したところにあるといえます。彼は力強くダイナミックな彫刻構成の中に、人間存在の愛と苦悩を高らかにうたいあげた彫刻家でした。戦前より二科会に出品するなど、日本との関わりも深いものがあります。本展では、ブロンズ八点の他、源氏物語に題材をとった「ゲンジ」などタピスリー二点、版画七点を陳列します。



ドラクロワ ダンテに扮したショパンの肖像 (デッサン)



ザッキン オルフェ (ブロンズ)



ザッキン ゲンジ (タピスリー)

講演会

▶11月17日(日) 午後2時～
 「ドラクロワ、エベールとその時代」
 東京大学教授 高階 秀爾

●美術映画会

美術に関する映画フィルムを用意して、映画会を開催します。どうぞ気軽に御参加ください。

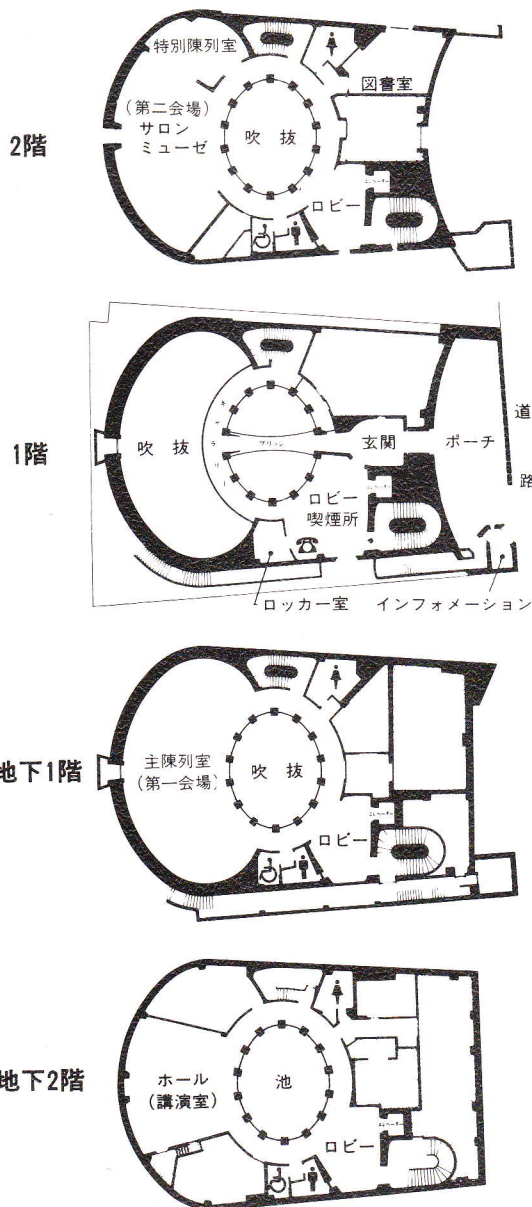
- ▶11月24日(日) 午後2時～3時
 「ドラクロワ ロマン主義の逆説」
- ▶12月8日(日) 午後2時～3時
 「アングル 古典主義画家の孤独な反乱」

●美術相談

専門知識と経験豊富な美術作家を招き、みなさまの制作と美術活動の援助になればと美術相談室を開催いたします。美術品の鑑定を除き、美術に関するどのような事でも相談ください。

- ▶11月4日(月) 午後1時～4時
 相談員 洋画家 宮田翁輔
 日本画家 荒井朝吉
 - ▶12月1日(日) 午後1時～4時
 相談員 洋画家 西嶋俊親
 日本画家 荒井朝吉
- 準備の都合上、事前に電話で相談内容を申し込んでください。

松濤美術館・平面図



会 期 昭和60年11月3日(日)～12月8日(日)
 休館日 第2日曜日及び他の週の月曜日 祝日の翌日
 〈11 / 5(火)・6(水)・10(日)・18(月)・25(月)・26(火)・12 / 2(月)〉
 開館時間 午前9時～午後5時 (ただし、入館は4時30分)
 入館料

	個人	団体 (20人以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

